

平成 28 年度第 3 回  
我孫子市いじめ防止対策委員会

日 時 平成 29 年 2 月 16 日 (木曜日)  
午後 3 時 00 分～午後 4 時 30 分

場 所 我孫子市教育委員会 大会議室

## 1 開会（倉部教育長）

## 2 会議の公開について（羽場センター長）

## 3 いじめ防止対策に関する報告および協議

### **【報告①】**

#### **（1）第2回いじめについてのアンケート集計結果について（羽場センター長）**

○1回目の6月と11月を比較しながらの報告○

- ・「あなたは今、いじめられていますか？」のいじめの認知件数について、小学校では「はい」が442件、中学校では27件で、6月よりも減少傾向。学年別に見ると、小学校では2・3年生が多い。

認知件数の推移については、平成27年度の6月から増加してきたが、今年度は、小学校では7.8%から6.6%、中学校では1.6%から0.9%と減少。なお、中学校では平成23年度からでは一番少ない。

- ・「誰に相談しましたか？」については、今までと比べて大きな違いはなかった。
- ・「いじめを見たとき等どうしていますか？」の回答では、昨年度からの最近4回の比較では大きな変化は見られない。中学校では「黙って見ている」が前回減少したが、今回増加している。「その他」の内容についても「結果的に何もしなかった」などが多く、今後の課題の一つであるとする。
- ・携帯電話（スマートフォン）の利用に関しては、小中学生とも持っている数が増加。現状としては、小学校では約半数が、中学校では74%の生徒が持っている。男女別では小中とも女子の割合が多めだが、これは、親の心配感が根底にあると思われる。また「スマートフォン」の割合も増えている。利用内容については、小学生ではメール関係が多い。中学生ではメールも多いがネットゲームの割合も多い。

#### **（2）第2回アンケート調査後の取組状況及び考察について（羽場センター長）**

- ・追跡調査結果として、未解消事案は小学校で1件、中学校でも1件あった。

<未解消の事案について>（佐藤指導主事）

- ・小学校男児の件：あだ名で呼ばれたり、「あっち行けよ」と言われたりすることがあり、つらい気持ちになった。加害者には友達との接し方を指導したり、その場での指導をしたりしている。指導後は少しずつ暴言などを控えるようになった。直接的な暴力はなく、言われる場面は減っているが“0（ゼロ）”にはなっていないので、継続的な見守りをしている。
- ・中学校男子の件：以前より姉弟間でのトラブルに関する訴えがあり、一時的におさまることはあったが、繰り返されている。性格面から、友達とトラブルを起こす可能性があり、根気よく丁寧な見守りを行っていく必要がある。

#### **（3）全国学力・学習状況調査による実態調査について（羽場センター長）**

- ・「普段テレビゲーム（コンピュータゲームや携帯電話を使ったゲーム等含む）をどのくらいしているか（1日あたり）」で、我孫子市は「1時間より少ない・全くしない」の割合が県・全国平均より多く、ゲーム時間は少なめの傾向にある。
- ・「携帯電話等の利用時間」では、小学校は少なめで、中学校でも同様の傾向である。

- ・「学校に行くのは楽しいと思うか」では、(そう思う・どちらかと言えばそう思う)が、小学校で87.7%。中学校では83.2%で楽しいと感じている割合が多い。
- ・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」では、(当てはまる・どちらかと言えば当てはまる)が、小学校では84.8%。中学校では78.4%あるが、(当てはまらない)も若干おり、課題の一つになると考えている。
- ・「人が困っている時は、すすんで助けている」については、(当てはまる・どちらかと言えば当てはまる)が小学校で86.5%、中学校で85.8%となっているが、さらに多くなって欲しい。
- ・「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」では、小学校99.1%、中学校では93.1%であった。中学校での(当てはまる)の数値が県や全国より低いので、もう少し増えて欲しいと思うとともに、100%に近づいて欲しい。

#### (4) Q-U検査を基にした「いじめ防止対策」の取組について(佐藤指導主事)

##### <学校巡回訪問での佐藤の活動>

- ①要支援の子・被侵害のある子・孤立感のある子を確認し、学級生活の状況を把握する。
- ②①に該当しなくても、「満足群」から「不満足群」に大きく変化を見せた子の状況について把握する。特に大きく位置が下がっている子は、一人一人確認している。
- ③検査後、気になる子には各学校で面談をするなどの対応を行って問題を解決してきているが、検査後2~3ヶ月の状況について確認するようにしている。
- ・現時点において、日常のちょっとしたトラブルはあるが、「いじめ」として問題になっている事例はなく、落ち着いた学校生活を送っている。しかし、小さなトラブルが、いついじめに発展するか難しい面もあり、継続的な観察(見守り)をお願いした。  
また、話を伺う中で、「どうしてこの子が不満足群にいるのだろうか?」「普段の生活は明るく元気で問題ないのだけれど…」という声を聞くことがあった。子どもの内なる声に気づいて対応することも重要であり、見守りを重ねてお願いした。

#### 【協議①】

<倉部議長>:我孫子市としては、「いじめを未然に防止するためには、先生達が気づくのが良い」という考え方で、いじめアンケートやQ-U検査を実施しています。事務局から報告がありました(1)~(4)までのところでご意見やご質問などいただきたいと思えます。まず(1)と(2)のアンケートに関連した件につきまして何かありますか?

<村田委員>:「中学校の未解消事案の件」は、学校と家庭とで話し合う中で、教育委員会が追加調査していることなど、問題を共有する理解は得られているのか?

<佐藤主事>:姉弟間のトラブルであると同時に、家庭内の状況についても保護者と相談しており、問題解決のために教育委員会等の関係機関と相談をしていくことについては話してある。また、父親が関係機関との相談を進めている。

<村田委員>:姉弟間だけのいじめなのか、それとも他の子どもからのいじめはどうか?

<佐藤主事>:いじめに関しては姉弟間のトラブルであり、学校内ではないと聞いている。

<センター長>:6月の段階でも報告があった。姉弟げんかのようなものもあるが、家庭内だけではなか

なか解決は難しいとの判断で、いじめアンケートに挙げてきていると思われるので、アンケートに回答している以上、いじめの案件として対応している。

<倉部議長>：生徒がいじめは解決していないと悩んでいる以上、特殊な事案であるが未解消事案として扱っていく。

<倉部議長>：続いて、全国学力・学習状況調査からの報告について、何かございますか？  
(特になし)

<倉部議長>：Q-U検査の報告について、何かございますか？  
(特になし)

では、報告の続きをお願いします。

## 【報告②】

<センター長>：

### (6) 資料3の「いじめに関する報道」より

・県内におけるいじめの把握件数はおよそ2.9万件。2年連続でワースト1位である。県教委は「軽微な事例まで把握が進んだことも要因」と前向きな説明をしている。

件数の多さだけが取り上げられがちだが、より丁寧に調査している現状から出てきた数字でもあることを知ってもらいたい。

- ・スウェーデンとの比較調査で、日本は「仲間外れや無視など」暴力を伴わないいじめが多い。
- ・子どもたちと共に、解決していく姿勢が大事だと考えている。
- ・松戸市での自殺の報道について、調査委員会を設けて慎重に調査を行っているが、我孫子市においても同様に考えている。

### (7) 資料4の「いじめのサイン」について

・「いじめられている子が発している無言のサイン」「いじめている子が発している無言のサイン」の家庭編・学校編を活用していきたい。

・「うちの子に限って…」という思いはあるかと思うが、いじめのサインについてチェックすることで、改めて見えてくるものもあると思う。

### (8) \*情報モラル研修会より映像資料について ※映像を映しながらの説明

・メディアのない世界で子どもを育てることは実質的に不可能である。そうであるならば、「メディアとの上手なつきあい方」を学ばせることが必要である。

スマートフォン利用のルール作りを推奨する前に、①そのルールがなぜ必要なのか、②ルールは作って終わりではなく、運用について考えさせることが重要。

## 【協議2】

<倉部議長>：「いじめに関する報道」だが、県によって数字の差が大きい。「いじめはないもの」として捉えていくか、「いじめはあるもの」として捉えていくかで差は出てくる。数が少ないからいいのではなく、結果として「いじめをなくすこと」が大切だという姿勢は県も我孫子市も同じ。

松戸市では、月1回のアンケートを実施しているが、いじめを見つける手段はいろいろある。我孫子市では年2回実施しているが、子どもが素直に答えられることが大

切だと考えている。

いじめゼロを目指すのか、なくならないという意識で「限りなくなくす」という取組をするのか。我孫子市では現状としていじめはあるので、後者で進めていきたい。

<村田委員>：情報研修会は、保護者全員が参加してもいい内容だと思う。

ある新聞では、スマホを使えば使うほど学力や対人能力が低下するという記事があった。「使うな」という指導ではなく、こういう内容の研修が必要で、我孫子市としてより広い人を対象に実施できればいいのではと思う。

<倉部議長>：情報モラルはとても大切なこと。市としても実施していく方法で考えていく。

<櫻井委員>：「いじめのサイン」チェック表は、家庭に配るなど実施したのか？家庭用・学校用ともに分かりやすい。実施した方がいいのでは？

<倉部議長>：本日は、こういうものがあるという紹介で、今後実施する方向で考えたい。

<佐藤委員>：いじめの数がワーストについて、その項目ごとに真摯に受け止めなければならないと思う。今回の中学校での案件を姉弟げんかにとらえるか、いじめ問題としてとらえるかで数字の意味は変わってくる。いじめ問題を隠したいと考えるか、小さなことでもいじめとしようとするかで数字の意味も変わってくると思う。ただし、千葉県として「減ってくる」ことが大切。

<川村委員>：松戸市の件だが、小学校低学年の時にいじめがあったと聞いている。それは一応解決したと聞いたが、アンケート等をとったとき、学校現場では過去どこまで残していけばいいのか？

<倉部議長>：子どもの対応への経過を見ていくとき、小学校入学から中学校卒業までとなる。プラス2年くらいはあった方がいいのではと考える。

#### (10) その他

<倉部議長>：『第三者による調査部会』について

松戸市の事件にもあったが、万が一のことを考えると『調査部会』が必要だと考えている。市としては、その組織について、この委員会の発足時にも確認したが、この委員会にも第三者として参加していただいている臨床心理士、弁護士、警察OB、心理相談員の4名の方をお願いしたいと考えている。また部会長には、川村学園女子大学心理学科臨床心理士の佐藤哲康様をお願いしたい。

(全員承諾)

『いじめ防止対策委員会』の任期について

この3月で任期が完了するが、先の4名には引き続き参加していただきたい。

<川村委員>：現場からの意見だが、今年、佐藤主事に学校に入ってもらったが、来年度も続けて欲しい。Q-U検査の検証に学校に来てもらったり、校内のいじめ委員会(研修会)にも参加してもらったりした。講師を外部から呼びにくい面もあるので、市の体制として継続してもらえればありがたい。

<倉部議長>：ご意見に応えられるようにしたい。

<センター長>：来年度の日程についての確認

#### 4 閉会(倉部教育長)